

2023 年度

学校関係者評価報告書

2024 年 3 月

専門学校 ベルランド看護助産大学校

学校関係者評価委員会

2023 年度学校関係者評価委員会

開催日時 令和 5 年 10 月 20 日 (金) 10 : 00 ~ 11 : 45

令和 6 年 3 月 14 日 (金) 10 : 00 ~ 11 : 55

委員 (敬称略)

委員長	森 均	大阪女学院大学・短期大学 教授
委員	酒井 ひろ子	関西医科大学 看護学部 教授
委員	田邊 博子	社会医療法人 生長会 看護部統括部長
委員	奥田 尚美	大阪府看護学校協議会 会長
委員	西田 好江	泉佐野泉南医師会看護専門学校 副学校長
委員	澤崎 隆志	愛仁会看護助産専門学校 事務部長
委員	西 智帆	助産学科同窓会会長
委員	山下 有紀	看護学科同窓会会長

I. 重点目標について

重点目標 1 学生募集・広報活動

取り組み	<ul style="list-style-type: none">・学生が参加しやすいオープンキャンパスと見学会の企画運営・学校ホームページ・Instagram の企画運営・外部諸活動(ガイダンス)の積極的参加
結果	<p>・学生広報主体のオープンキャンパスを企画。全体説明の学生生活を在校生が担当。受験生、保護者に看護学生がよりリアルにイメージできるように演習、歓談会においても在校生が主体となるオープンキャンパスを実施した。高度専門看護学科においては参加者から高評価を得ることができ、2022 年と度比較して参加数が 1 割強増加した。</p> <p>・少子化が進む中で他校との差別化についてさらに取り組む必要がある。対象者の拡大が必要で、リカレント(大学生・社会人)を考える世代への取り組みが弱いことから、2024 年度はより強化していく。また昨年同様学校訪問を実施し高校教員との連携を深めていく。</p>

重点目標 2 教育・サービス

取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ICT 利活用による教育環境および機器の充実と教育効果の向上・リアルな学びを支えるシミュレーション教育の発展・実習施設との連携、看護実践能力の育成支援・助産師・看護師国家試験合格 100%・学生相談窓口の設置
結果	<ul style="list-style-type: none">・高度専門看護学科においてシミュレーション教育を通して、継続的な取り組みにより、看護の意味付けや批判的思考の育成につなげることができた。・臨床看護の実際では、OSCE 評価による試験を実施。突発的な事象や多重課題となるシナリオを作成し、臨床判断能力を強化できた。・先輩から後輩への支援を強化し、看護技術習得に向けた支援を行った。実習前

	<p>後でのチュータ学生によるピアサポートを取り入れることで、学生間の相互作用を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産学科はシミュレーション教育に取り組むことで学生が主体的に臨地での学びを深め実践力の向上をみることができた。分娩介助 10 例は遵守できたが、臨床の感染対策上の理由などにより平均経験例数は減少している。 ・スクールカウンセラーを週 1 で配置しているが、ハラスメント対策も含めてより学生が相談しやすい体制づくりに注視し、WEB を活用した予約を 2024 年度から開始する。 ・国家試験の合格率は、高度専門看護学科 100%、助産学科 100%であった。
--	--

重点目標 3 コスト削減

取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱使用量 5%削減 ・消耗品・教材物品購入の 1%削減
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・電気・ガス代の高騰から 2023 年度は使用量で比較を行った。光熱使用量に関しては 5%削減を達成した。ただ教室等でのオンオフが徹底できていない。継続して学生への指導を行っていく。 ・消耗品・教材物品についても継続して物品管理を行った。

重点目標 4 組織人材

取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人的資源管理に努め協働できる組織体制の構築 ・教員キャリア支援 ・会議時間・残業時間の削減
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスについては、会議時間平均は昨年と比較してやや減少し、ストレスチェックの結果も昨年と比較して若干減少した。しかし全体平均と比較して高ストレス傾向は変わらない。2024 年度は学校組織体制を再構築し、法人の 2024 年度基本方針の「共創」を意識した主体的参画による学校運営をはかり、教職員の獲得と定着に尽力する。

II 総評

本年度は、委員の皆様から昨年度以上に率直な意見表明がなされ、活発な議論が交わされた。それを支えたものは本学教職員の皆様の真摯な取り組みとその成果である。

一方で、戦争の終息はいまだ見通せず、円安も加わり、将来を見通すことが難しい。また大学の看護学部設置の動きも盛んである。こんな時こそ、本学の“強み”を明確にして現在の若者にあった情報発信に努めていただきたい。

また、どのような組織でも人材育成を怠れば衰退すると考える。「転職が当たり前」になりつつある現在、今まで以上に教職員間のコミュニケーションを豊かにし、学生が将来本学の教員になりたいと思うような働きやすい職場づくりに努めていただきたいと考える。